平成９年２月１２日

「生産学術連合会議」の設立について

日本学術会議 機械工学研究連絡委員会
機械加工専門委員会 委員長　岩田 一明
幹事　東京農工大学　西脇 信彦

来るべき２１世紀において豊かな人間社会を安定して維持するためには，今，我が国を含めた世界各国において，新しい「ものづくり」に対する考え方が問われている．これに答えるためには，刻々と変化する地球・国際・社会環境などをも視野に入れた，広義のものづくり（生産）の科学技術を，十分に発展・成熟させるとともに，次の夢を共有させる，産官学をあげての努力が求められている．

日本学術会議機械工学研究連絡委員会の機械加工専門委員会では，昨秋，日本機械学会，自動車技術会，精密工学会，日本塑性学会，日本ロボット学会，日本設計工学会，電気加工学会，日本鉄道技術協会などの学協会の協力を得て，「２１世紀で開花する生産科学技術－夢のブレークスルー－」と題するシンポジウムを開催し，２１世紀初頭における生産科学・技術について，そのありかた，現状から見た問題点等を討論した．そこでは，「生産科学技術の夢のブレークスルーを実現する時期とそのための問題点」，「産業，社会へのインパクト」，「生産科学・技術分野の学術研究の価値意識」，「人材，研究費，学官産の研究協調体制等の問題」，「生産研究分野の知的財産の継承，新しい教育システムの問題」，「ものの創出と文化との関連」等について具体的な議論が行われ，これまで築き上げてきた固有技術の基盤の上に生産科学を統合する新たな枠組みを創り出す必要性が示された．

そこでこのシンポジウムを機会に，従来の学協会の壁を越えて生産に関する科学技術をさらに発展させるため，「生産」に関連する人々が集まり，「生産学術連合会議」を設立・開催するものである．